

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270800212		
法人名	社会福祉法人 青森社会福祉振興団		
事業所名	グループホーム まるめろ		
所在地	〒035-0067 青森県むつ市十二林11-13		
自己評価作成日	令和2年9月4日	評価結果市町村受理日	令和3年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしており、ゆったりとした生活の流れの中で利用者が思いのままに過ごしていただくことを優先してる。分かること、できることを発揮する場面作りや、気付いて自然に行動に移せるような働きかけ等を工夫し、健康で楽しい暮らしを支援することを実践している。家族との繋がりを保ち、協力し合いながら利用者支援を目指している。新型コロナウイルスの影響で町内活動が中止となったが、近隣住民との交流を図っている。よりよいケアを実践、提供するために各種研修に参加している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人の特別養護老人ホームやクリニック等、様々な施設が併設されている。玄関先にはベンチが設置されており、敷地内を散歩して楽しめる。また、近隣にはスーパーがあり、気軽に出かけて生活感を味わうことができる立地にある。法人では様々な福祉サービスを提供していることから、利用者と家族は安心して生活することができる。職員は普段の気付きを大切に、声掛けに配慮しながら明るい雰囲気づくりを自然に行っている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の個性をそのままに、これまでの生活を維持できる方針を掲げている。職員全員が理念を共有できるように事務所に掲示し、朝礼時に再確認する場を作っている。	「地域の住民として、昔ながらの助け合いの気持ちを大切に、様々なふれあいを通じて利用者が活気を生み、地域への貢献を図る。」を理念とし、管理者、職員ともにホームの運営が地域の一員としての役割を果たすよう努めており、地域密着型サービスの役割を理解している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板や散歩、買い物等で近隣住民と交流を図っている。昨年度は地域の行事に参加しており、今年度は新型コロナウイルスの影響で行事が中止となっている。	町内会へ加入し、ホームの夏祭り等には町内会の方々を招待する等、地域住民と交流を行っている。また、町内会が年2回実施しているゴミ拾い活動に参加し、いざというときに地域の方々に利用者を見守ってもらえるように働きかけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者に心理的に負担のない人数の実習生とボランティアの受け入れを行っている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で実習が中止となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、サービス提供状況と課題を書面で報告し、それを基にメンバーから疑義と意見をいただき、今後のケアに反映している。	運営推進会議には、行政や包括支援センター、地域の代表者、家族の代表者が参画している。会議では状況報告等を行い、良かったと思われる点や工夫してほしい点、感想等を参加メンバーから意見として出している。出された意見は検討し、今後に繋がられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者を通じてケアの取り組みを電話やメール等で報告している。	運営推進会議に市介護保険担当者が参画している。今般のコロナ対応では、マスクや消毒液の確保についての助言や、事業所が実施した身体拘束に係る研修への助言をいただく等、緊密に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、行動を止めずに見守りまたは付き添いをしている。身体拘束につながる行動を研修で学び、日々のケアを振り返り話し合っている。	法人研修やホーム内研修を徹底し、身体拘束の内容や弊害についての理解を深めている。やむを得ず身体拘束を行わなければならないときは、その理由や方法、期間について書面で同意を求めている。経過観察等については記録を残す体制である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修を開催し、理解を深めている。日々のケアを振り返り、確認と話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて成年後見制度や日常生活自立支援事業について学んでいる。必要時、対応できるように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等は、時間を十分に取って分かりやすい説明を心掛けている。質問や疑問点等も随時受け付け、理解と納得をされているか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会時には気兼ねなく話ができる雰囲気作りを心掛け、ゆっくり話を聞く機会を設けている。いただいた意見は職員間で共有し、ケアに反映している。	日々のケアに対する利用者の気持ちや意見を把握できるよう声掛けに努めるとともに、玄関に意見箱を設置している。いただいた意見や苦情等は、速やかに対応する体制としているが、これまで意見箱に投函されたことがない。	利用者、家族等から少しでも多くの意見や要望等を聞けるよう、行事を活用する等、職員で話し合ってみてはどうでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時やホーム内の会議、個別面談等で思いや意見を聞いている。また、各エリア代表で構成された議会に意見を寄せ、経営層と協議する仕組みとなっている。	毎月職員会議を開催している。現場職員の意見を聞く機会を設けているほか、業務に係る各種マニュアルの整備についても職員の意見を取り入れる等、運営に関して現場の意向が反映されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の実施等、職員が働きやすい職場作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に必要な研修を開催している。全員及び個別に参加できる機会を設け、能力アップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者と交流し、情報交換する機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から現在の状況を事前面談や関係者からの情報収集等でアセスメントし、状況把握に努めている。顔合わせの際には、関係者の同席を求めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在までの苦労と経緯、家族の思いを十分に受け止め、相談できる時間を設けている。今後の支援については、相互理解を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談で本人と家族が求めていること等を聞き取り、不安を解消できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす中で「助け合って生活していきましょう」、「お互い様」というアピールを言葉と態度で示している。感謝と尊敬の念を素直に表現できるような関係が築かれている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係が途切れないよう、日頃から連絡を密にしている。電話や手紙、ホームページ等に日頃の様子を掲載している。情報共有に努め、家族とともに利用者を支えていく関係が築かれている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの店や場所等の関わりやこだわりはそのまま継続し、定期的に訪問することができている。交流が途切れない働きかけをしている。	入居時は家族等からのヒアリングや利用者への声掛けで親しい人や馴染みの場所を把握するようにしている。入居後は、利用者がこれまで利用してきた美容院の利用を支援したり、お墓参りに連れて行く等、本人の馴染みの場所へ出かけられる支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性をスタッフ間で共有し、団欒する場面作りや個別に話を聴く時間を設ける等している。職員は調整役として支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や施設に移った後でも、自由に行き来できるようにしている。必要に応じて相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者からの聞き取りを第一に行っている。聞き取りが困難な場合は、家族の情報提供から本人の立場となって検討している。また、ご家族とともに検討することもある。	日々のケアで利用者と親しく接し、その言動から思いを感じとり、利用者本人の思いや意向を把握するようにしている。利用者からの聞き取りが困難な場合には、ご家族または知人等からも情報収集を行い、本人の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネジャー、事業所等から情報提供していただき、生活歴やライフスタイル等について把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを理解し、1日の過ごし方や状態を朝礼時に確認し合っている。できることは認め、できないことは助け合いの姿勢で観察し、状態を把握している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の思いを確認し、介護計画に反映している。更新時はカンファレンスを開催し、チームで検討している。	介護計画は、担当職員やケアマネジャー、ユニット全職員が参画している。カンファレンスにおける意見や気づきを基に、十分に話し合い作成している。身体状況の変化時や利用者または家族等の希望の変化時には、随時見直しを行う体制である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の記録以外にも個別の連絡事項の共有を図るためのツール(PC)がある。職務前に確認することをルールとしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズは優先して対応し、そのときの状況により送迎等を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーや家族、他事業所等と暮らしに必要な情報交換を行う等、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ継続受診ができるようにスタッフが付き添っている。希望や症状に応じて専門医への受診対応もしている。受診経緯や結果は、家族に随時報告している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携しており、週1回のヘルスチェックや利用者の状態に合わせたアドバイスを随時受けることができる。また、24時間の相談体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐため、関係者と面談している。面会時には、利用者や家族、担当看護師や医師と話す機会を持ち、ホームとして対応可能な状態となった時点での退院をアプローチしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針に沿って利用者と家族の意向を踏まえ、医師や職員、訪問看護師が連携している。全員が納得できる方針を相談し、安心した終末期をおくられるように支援している。	同法人が運営するクリニックの医師や訪問看護師等との連携のもと、終末期にも対応している。同法人の特養をはじめ、多くの介護施設と連携し、利用者の状態に応じた施設の利用を促していく等、法人全体で終末期の対応を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で緊急時の対応についてロールプレイを交えながら学び、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでの災害を想定した防災訓練を年間計画で実施している。近隣住民の協力を得て実際の避難方法を習得している。今年度は新型コロナウイルスの影響で口頭のみで実施している。	敷地内に併設されている法人内の他事業所と連携し、日中と夜間を想定した避難誘導策を作成している。年1回の防災訓練は、消防署と町内会の関係者に参加の協力を得ている。災害時備蓄品は法人全体で保有しており、定期的に点検して管理している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや自尊心に配慮している。職員間で振り返り、注意し合っている。	利用者の自尊心と個性に配慮し、言動を受け止める等、適切な対応に努めている。管理者が職員の利用者に対する声掛けや接し方等について目配りを行っている。また、職員同士でも気になることは注意し合う等の対応が徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者と一緒に過ごす時間を通して、希望や関心等を見極めている。自己決定して自然に行動に移せるような声掛けや支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースやその日の状態に合わせた行動ができるように意思確認している。また、見守り等の必要な支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院への外出支援をしている。行事や外出の際は、化粧やおしゃれを楽しめるように工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食材切りや盛り付け、片付け等、一人ひとりができることを自発的に行えるように支援している。職員も一緒に同じテーブルについて、楽しく食事ができる雰囲気作り配慮している。	通常の食事はご飯とみそ汁のみホームで作り、おかずは法人の配食センターから提供される栄養バランスに配慮された食事となっている。行事の際には、ホームで食事を調達し、メニューを工夫して利用者が食事を楽しめるよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を見て栄養バランスに配慮したり、似通った食材にならないように味噌汁の食材を決めている。毎日、水分補給に努めるとともに、水分・食事摂取量のチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは日課としており、自分でできる部分は見守り、できない部分は支援して清潔にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄できるようにパターンの把握や排泄チェック、時間、間隔、サイン等で個別に声掛けをして適切な誘導につなげている。誘導の声掛けを統一して繰り返すことで自立につなげている。	個別管理表により、一人ひとりの排泄パターンを記録、把握している。尿意や便意の確認時、誘導時、失禁時等は、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮し、他の利用者に気づかれないよう速やかに支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維、乳製品の摂取のほか、運動等を実施し、自然排便を促すよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	希望があればいつでも入浴ができるようになっている。スムーズに入浴できるよう、タイミングを見計らって声掛けする等の支援をしている。	時間帯や好みの入浴剤を使用する等の意向を取り入れている。入浴を拒否する利用者には、「お薬を塗らないといけいないから。入りましょう」等の声掛けや対応等を工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調に応じて休息がとれるように支援している。就寝前には孤独感を与えないようにしている。落ち着かないときは、添い寝をする等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬説明書を個人別にファイリングし、詳細を閲覧できるように工夫している。服用前に内容を確認し、誤薬や飲み忘れを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から役割を汲み取り、行ってもらったことに対して感謝を述べている。得意なことや好きなことを集中して行う等、気分転換を図りながら楽しい時間を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は気分転換やストレス発散、季節を肌で感じるチャンスとして捉えている。新型コロナウイルスの影響で積極的な外出はできていないが、敷地内の散歩や受診の際に買い物する等の支援を行っている。	現在は新型コロナウイルスの影響で外出を控えているが、利用者のストレスに配慮して徐々に近場へのドライブを企画する等、外出の機会を確保するようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理、事業所管理に関わらず、利用者本人が自分自身で支払いするという行為ができるように見守りや助言をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもできる環境にあり、希望時にはすぐに対応している。手紙を書く際は見守りをして、助言や必要な支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感刺激への配慮を行い、ストレスを与えないような環境作りに工夫している。室内外に飾る花は時季のものを置き、居心地良く過ごせるような雰囲気作りをしている。	家庭にあるような家具等が配置され、ホームは家庭的な雰囲気が感じられるよう工夫されている。時季に合わせ季節を感じられる飾りつけ等を利用者と職員が一緒に作成し、季節を楽しめるように配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し、利用者同士がくつろぐいざりできる休憩場所としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた家具があり、利用者が安心して居心地よく過ごせる場所となっている。	ホームに備え付けの物品はタンスのみとなっているため、利用者の馴染みのものを持っているため、利用者の働きかけを促している。また、希望により絨毯や畳敷きの居室にもすることができ体制であり、本人の過ごしやすさを最も優先した居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる力と分かる力を見極め、本人の力で行うにはどうすればよいかを考え、認識しやすい環境整備に努めている。		